

授業コード / Code	科目名 / Course Title	担当者 / Instructor	履修年次 / Semester	授業形態・単位数 / Style・Credits	必修選択の別 / compulsory subjects or optional subjects
j29206	幼児と表現Ⅱ(造形)	前沢 知子	1年次・Ⅱ期	講義・1単位	幼免選択必修

授業の概要 / Course Outline
この授業では、幼児期の造形表現活動の意義を踏まえ、保育者として子どもの主体性を大切に、子どもが自分なりの思いを楽しみながら表現できる造形活動を支えるための基本的な知識や技能、及び、態度を学びます。さまざまな造形表現や素材などを実践的に体験しながら、幼児の表現の様子や発達の姿、そして保育・幼児教育の現場で配慮すべき事柄等についても解説を行ないます。

到達目標 / Attainment Objectives	ディプロマポリシーとの対応関係 / Relationship with the diploma policy
子どもの造形表現活動の意義や目的、あり方について理解する	A-② A-①
表現の多様性や子どもの視点に寄り添うことができる感性を身につける	A-① B-①
子どもの発達に沿った造形表現活動の素材や環境づくりについて基礎的な知識を身につける	A-② C-①

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation		
種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記) End of Semester Examination (Written)	0%	
レポート試験 Report Examination	70%	アートジャーナル 30% 課題40%
実技試験 Practical skill test	0%	
平常点評価 Continuous Assessment	30%	授業課題への取組み30%

教科書 / Textbooks
『3・4・5歳児が夢中になる 実践！造形遊び』(ナツメ社)

参考書 / Reference Books
『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)

予習・復習 / Preparation・Review
各回の授業に臨むにあたり、授業日程で示した授業内容について教科書の該当ページなどで予習しておくこと。 授業後は、授業での学びをドキュメンテーションとして、アートジャーナルにまとめておくこと。(予習復習の時間は90分程度)

課題に対するフィードバック方法 / How to give feedback on tasks
アートジャーナル、授業課題については、授業内で適宜講評・指導等フィードバックを行う。

その他 / Others
アートジャーナル用のB4サイズ程度のノート等を用意すること。(詳細は授業で説明します)必要な材料や道具については各回の授業の中で説明します。 実際に素材を用いた活動の回では、活動しやすく絵の具等が付いてもよい服装と履き物で受講すること。

授業スケジュール / Course Schedule

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

授業回数 Lecture	テーマ / Theme
	内容 / Contents
01	<p>幼児と造形表現活動</p> <p>子どもの造形表現活動の資料などを基に、領域「表現」のねらい及び内容について理解する。</p>
02	<p>色に親しむ活動と表現</p> <p>からだ全体で絵の具や色を感じながら表してみることを通して、活動での子どもの学びや保育者の役割について考える。</p>
03	<p>かたちや色を楽しむ活動と表現</p> <p>かたちや色の面白さを感じながら表してみることを通して、活動での子どもの学びや保育者の役割について考える。</p>
04	<p>感触を楽しむ活動と表現</p> <p>感触遊びや粘土遊びを通して、活動での子どもの学びや保育者の役割について考える。</p>
05	<p>自然の素材を使った活動と表現</p> <p>自然の素材に諸感覚で関わったり表したりすることを通して、活動での子どもの学びや保育者の役割について考える。</p>
06	<p>身近な素材を使った活動と表現</p> <p>身近な素材での制作を通して、活動での子どもの学びや保育者の役割について考える。</p>
07	<p>子どもの表現の発達を理解</p> <p>事例を通して、子どもの多様な表現の姿や表現と発達との関係について理解する。</p>
08	<p>表現の鑑賞</p> <p>鑑賞を通して、表現の面白さや感じ方の多様なことなどを理解する。また、子どもの表現やその思いへの理解を深める。</p>